

吉田町地域自主組織連絡協議会と「変わらず変える！市長と“えすこトーク”」

【日時】

令和8年1月26日（月）17：00～17：30

【会場】

吉田交流センター

【参加者】

10人

□意見交換

田井地区振興協議会

昨年12月27日に山陰中央新報に掲載された雲南市に自衛隊の弾薬庫、訓練場を誘致する話があるという記事について。今どのような状況か伺いたい。

市長)

・ 現時点では私どもも正式に聞いていない話。記事に出ていた雲南地区防衛協力会でも組織決定されていないとのこと。有志の方が地域でお話をされている状況だと伺っている。

田井地区振興協議会

記事では民谷で20名あまりの地元の方に説明会をされたと書かれていたがご存じないか。

民谷地区振興協議会

・ 話は聞いており今は調査をしても良いかという段階。そのような話はあるが、実際には行動に移す段階ではない。地域の賛否を聞かせてほしいとのことであったが、それも出していない。調査をしても良いか悪いかという段階のようだ。

田井地区振興協議会

対象になるような土地があるのか。

民谷地区振興協議会

・ 宇山と民谷の真ん中、中山を想定しているようだ。賛成と反対の意見を聞いてからの話。新聞に載ったために問い合わせがあるが市からも何の話もない。地域自主組織に話がある前に市へ具体的な話があるのではないか。

市長)

・ 市としてそのようなお話を伺っている状況ではない。あくまでも思いを持っている方が地元のみ皆さんの感覚をお聞きになっている段階ではないかと思う。どうやって地域を振興したらよいかという1つのアイデアとしての話のようだ。

田井地区振興協議会

「雲南地区防衛協力会」という団体があるのか。

市長)

- ・ 雲南市から入隊している隊員など自衛隊の活動を応援しようと2~3年前に発足した。

民谷地区振興協議会

実際のところ何回も話したが、本当にやるならば順番が間違っているように思う。本来であれば県あるいは市から先に話が出てこないといけない。我々がいくら良いと言ったからといって、なかなかできることではない。今の段階では調査をしても良いか悪いかという段階。

メディアが先行しすぎて、地元の者も全然ついていけない。

吉田地区振興協議会

先日、雲南市地域自主組織連絡協議会において、ある会長から「吉田にそのような施設ができることは心配だ」との発言があった。吉田町の当事者としても「何もわかりません」としか言えなかった。

雲南市は「平和を」の都市宣言をしていることから考えなければならないことと思う。地域振興に有用かどうかという観点も必要ではないか。

田井地区振興協議会

誘致すれば交付金等が市に入るのか。

市長)

- ・ あくまでも一般論だが、自衛隊の関連施設がある自治体には地域振興のための交付金、固定資産税相当額の支援は当然に入ると思う。また、そういう施設ができると管理要員がついてくる。出雲の川下や浜田港も自衛隊施設にしてほしいと要望を出されている。施設による経済効果を考えた上で声を上げておられると思っている。

田井地区振興協議会

中山間地域の農業について、市長のお考えを聞かせてほしい。農地を大規模に集約したり、大型機械を使えばよいが、田井や上山は集約もできない、大型の機械も入らない、圃場整備もできない土地柄。そのような所で担い手を育成していくにあたって、この厳しい中で農業をやってくれと言いつらい。担い手を作れないのが現状。

市長)

・ 農業を米作りでやっていくには、ある程度の規模感が必要だと思っている。吉田の合同会社「元気ファームズよしだ」の取り組みに期待している。経営を大きくし雇用によって担い手を確保していくことは有用だと思っている。ただ、国が言うように圃場そのものを大規模化して、コストを下げ外国米と競争できるようにするという発想は当然中山間地域ではできない。どちらかと言うと安い米ではなく、品質の良い米を作って勝負をしていく。コストを下げるのではなく、単価を上げる取り組みがまずは必要だと思っている。その上で、事業によって雇用する担い手という考え方もあるが、兼業で進めるいわゆる「農村環境を守るための農業」もある。その担い手となると何かの仕事をしながら農業を続けるという形をとらざるを得ない。その部分をどうするかということは非常に難しい。これまで兼業農家では親から子へ繋いでいくことで事業を継続してきたが、今それが切れてしまうと第三者承継を行うことになる。しかし、第三者に繋いでいくことは非常に難しい。どのように農地を守っていくのかまさに考えなければならない課題。第三者へ繋ぐことができるような仕組みづくりが必要。私が新年の新聞紙上で述べていたのはこのような趣旨。米以外ではすでにブドウやアスパラガス、花卉など園芸作物でチャレンジしている若者が始めている。新しい担い手を地域で確保していくことは必要だと考えている。

田井地区振興協議会

課題は若い人に農業に興味を持ってもらえるかどうかということ。市で積極的に取り組んでほしい。

市長)

・ 若い就農希望者を繋いでいくことは当然取り組む必要がある。良い情報があれば教えていただきたい。先日、小中学校の校長会で意見交換した際に農業に対するイメージをもっと上げる努力をしてほしいと話した。機械を使うなどスマートでかっこいい今の農業を子どもたちに見せてほしい、夢を描けるような教育をしてほしいと伝えてもいる。そうした努力をしながら農業の担い手を確保していきたい。

吉田地区振興協議会

農地の公社化についてはどうなっているのか。

市長)

・ 職員と意思疎通を図りながら検討を続けている。まだ、具体についてお話しできる段階ではない。

--- 17:30 --- 終了